

# ある精肉店の はなし



いのちを食べて

いのちは生きる

ほろりのしま  
『祝の島』につづく

はなぶさ  
瀬瀬あや監督作第二弾

プロデューサー：本橋成一 製作：やしほ映画社、ポレポレタイムス社



釜山国際映画祭  
ワイドアングル部門  
正式出品作品



山形国際ドキュメンタリー映画祭  
日本プログラム部門  
正式出品作品

文化庁映画賞 文化記録映画大賞奨賞  
第5回辻静雄食文化賞受賞





牛の飼育から屠畜解体まで、  
いのちが輝いている、  
前代未聞の優しいドキュメンタリー。

## 鎌田 慧 (ルポライター)

「生」の本質を見つけてきた家族の記録。

いのちを食べて人は生きる。

北出精肉店も新たな日々を重ねていく。

最後の屠畜を終え、

102年の歴史に幕を下ろした。

代々使用してきた屠畜場が、

2012年3月。

地域や家族も変わっていった。

いつしか自分たちの意識も変化し、

地域の仲間とともに

差別のない社会にしたいと、

いわれなき差別を受けてきた父の姿。

被差別部落ゆえの

家業を継ぎ7代目となる兄弟の心にあるのは

家では、家族4世代が食卓に集い、いつもにぎやかだ。

立派なだんじり太鼓へと姿を変えていく。

皮は丹念になめされ、

丁寧に切り分けられ、店頭に並ぶ。

店に持ち帰られた枝肉は、

牛と人の体温が混ざり合う屠畜場は、熱気に満ちていた。

家族4人の息の合った手わざで牛が捌かれていく。

ある精肉店との出会いから、この映画は始まった。

大阪貝塚市での屠畜見学会。

牛のいのちと全身全霊で向き合う



北出さん家族と一緒にいるときも、  
地域にいるときも、私は大きな安心感  
に包まれていた。生まれ出た場所で、  
自分が自分として生きること。それを  
考え抜き、生き抜いてきた彼らは、  
しなやかでありながら揺るぎなく、  
そして果てしなく慈愛に満ちていた。

監督：瀬瀬あや



監督：瀬瀬あや プロデューサー：本橋成

撮影：大久保津奈 録音：増田裕彦 編集：桐原邦彦 サウンドデザイン・整音：江夏正晃 (marimo RECORDS) 音楽：佐久間順平 宣伝：西岡里佳 製作デスク：中植きさら

製作総括：大槻貴宏 グラフィックデザイン：大橋祐介 協力：映画『ある精肉店のはなし』を応援する会 製作：やしほ映画社、ポレポレタイムス社

2013年/日本/108分

『ある精肉店のはなし』公式ホームページ：<http://www.seinikuten-ciga.com/>

# 3月8日(土)「人権まつり」で上映します。

## 守山市地域総合センター遊戯室 コーヒーサービズあり

\*瀬瀬あや監督のトークあります。上映時間 13:30~